

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																											
名古屋平成看護医療専門学校	平成30年9月10日	高木 保子	〒464-0850 愛知県名古屋市千種区今池一丁目5-31 (電話) 052-735-1608																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人平成医療学園	平成13年3月30日	理事長 岸野 雅方	〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎七丁目7-17 (電話) 06-6375-7773																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																										
文化・教養	文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー学科	令和元年文部科学省認定	-																										
学科の目的	学校教育法及び公認スポーツ指導者制度に基づき、アスレティックトレーナーに必要な理論ならびに技術の専門教育を行うとともに、指導者としての人間性を高め、社会の福祉と国民の健康保持・増進に寄与する人材の育成を目的とする。																													
認定年月日	平成27年2月17日																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な授業時数又は単位数	講義	演習	実習	実験																								
2年	昼間	1800	1140	0	240	0																								
						420																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
70	9	0人	2	6	8																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、積極性、提出物、試験結果等から																									
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月28日～9月10日 ■冬季:12月26日～1月4日 ■学年末: ~3月31日			卒業・進級条件	各学科生とも次の全条件を満たしていること 進級:各学年単位認定科目が6単位以下であること。 卒業:卒業必要単位数以上を取得していること。 *定められた学納金を完納していること。																									
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 段階的な確認テストの実施、資格直前対策 保護者との出席・生活状況の連絡、担任就職担当者等による個別面談・サポート			課外活動	■課外活動の種類 今池まつりボランティア・スポーツ大会実行委員会等 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報)																									
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) リハビリ助手、パーソナルトレーナー、リハビリトレーナー、スポーツインストラクター、体操教室、スポーツスクール ■就職指導内容 就職対策講座開講、業界研究サポート、履歴書添削、面接指導 ■卒業者数 0 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 #DIV/0! % ■卒業者に占める就職者の割合 : #DIV/0! % ■その他 ・進学者数: 0人 ・その他: 0人			主な学修成果(資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(公財)日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	(公財)日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー	③	0人	0人																
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																											
(公財)日本スポーツ協会 アスレティックトレーナー	③	0人	0人																											
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 平成31年4月1日時点において、在学者0名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者0名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任面談、保護者との連携			中退率 0 %																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 入学時特別奨学金、ダブル在籍支援奨学金、再進学支援奨学金、特待生支援奨学金、緊急支援奨学金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科のホームページURL	https://www.nheisei.ac.jp/																													

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

常に業界の状況やニーズを把握し、最先端の知識や技術を学校として吸収し教育内容に反映していくことはもちろんのことと、学生への教授についても業界最先端の仕事の進め方などを熟知した上で実施するため、本校で開催する教育課程編成委員会においては、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科ひいては学校全体の教育運営に資することを目的とする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱をうけた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、学科長において協議のうえ、該当学科にて実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
都嶋 信成	セントラルスポーツ株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
大野 隆成	特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	①
菅野 昌明	株式会社エム・スポーツコンサルティング	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
美甘 祐司	株式会社みかも (みかも鍼灸接骨院)	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	③
高木 保子	名古屋平成看護医療専門学校 校 長	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	
天野 雅斗	名古屋平成看護医療専門学校 アスレティックトレーナー学科 学科長	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	
鬼塚 竜二	名古屋平成看護医療専門学校 事務次長	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7～9月、12～3月)

(開催日時(実績))

・令和元年12月20日 11:00～12:00

・令和2年2月28日 11:00～12:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

12月20日に実施した第1回の委員会においては、新カリキュラムの単位表について話し合った。医療系学科との併修を推奨していくことや授業後の有効活用などのアドバイスをして頂いた。2月28日に実施した第2回の委員会では、前回のアドバイスを加味し、カリキュラムの再編成をしたもので意見交換を行った。貴重な意見を参考に今後の学校運営および教育課程の編成に活かしていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医療・健康分野の成長と安全に貢献できる人材の育成を目指し、次の基本方針に基づき実習・演習を行う。

①「患者(クライアント)との対話に基づいた医療(処置)」に焦点を当てた教育の実践

②現代医療(科学)で重視されている「科学的根拠に基づいた医療(指導)」(EBM)の業界における取組に必要とされる教育の実践

③業界に対して現代社会で求められている、あるいは今後のニーズが高まるであろう領域で必要とされる教育の実践

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習前に本校の担当教員と企業側の講師が、実習内容や学生の学修成果の評価方法・評価指標について確認する。

実習期間中は、学生の実習実施状況や能力習得状況を定期的に把握できるように相互に情報交換を行う。

実習終了時には、講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
現場実習	救急処置の重要性を理解する。 スポーツ現場における救急処置を習得する。	株式会社 カロ
テーピング実習	アスレティックトレーナーが遭遇しやすいスポーツ外傷・障害に対するテーピング方法を理解し実施できるようにする。	GOTOHARI治療院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

技術・技能・指導力の向上に努め、それを学生に還元するため、下記のような研修会等を実施することを基本方針とする。

- ①業界関係団体の研修会や各種学会への参加
- ②病院・介護施設等の活動現場での研修等
- ③外部講師による研修等

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「アスレティックトレーナー専任教員ミーティング」(連携企業等:日本スポーツ協会)

期間:令和元年8月26日(月) 対象:アスレティックトレーナー学科専任教員

内容:試験合否のポイント、試験実施手順 等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「2019年度通常総会・研修会」(連携企業等:日本トレーニング指導者協会)

期間:令和元年6月2日(日) 対象:アスレティックトレーナー、トレーニング指導者、他

内容:アスリートに対するVelocity Based Training の実践的応用 等

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「アスレティックトレーナー専任教員ミーティング」(連携企業等:日本スポーツ協会)

期間:令和2年8月31日(月) 対象:アスレティックトレーナー学科専任教員

内容:アンケート結果、アスレティックトレーナー専門科目カリキュラムおよびテキストの改訂等

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「2020年度通常総会・研修会」(連携企業等:日本トレーニング指導者協会)

期間:令和2年6月7日(日) 対象:アスレティックトレーナー、トレーニング指導者、他

内容:アスリートに向けたトレーニング指導実践 等

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価評価報告書」および「授業科目等の概要」について企業等の外部委員を交えることにより様々な観点から客觀性・透明性の高い評価を行う。

その評価結果を基にして、教育と学校運営水準のより一層の向上を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・人材育成像、独自性の高い教育手法
(2)学校運営	運営方針、事業計画、組織活性化、業務効率化・情報システム整備
(3)教育活動	教育体制、学修目標、カリキュラム編成、専門教育、成績評価など
(4)学修成果	就職に関する目標設定、卒業生進路、資格取得
(5)学生支援	就職指導体制、ハラスメント防止、経済的支援、保護者との連携など
(6)教育環境	施設設備の整備、防火体制、保健衛生管理、学外実施、海外研修
(7)学生の受け入れ募集	学生募集の考え方、入試選考についてなど
(8)財務	予算について、監査・財務情報の公開について
(9)法令等の遵守	法令等の遵守、自己点検・自己評価、学校関係者評価など
(10)社会貢献・地域貢献	地域への貢献について
(11)国際交流	一

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生数の増加が必要との結果から、まず学校情報をより幅広く周知し、認知度を高める必要があること、学校ホームページをリニューアルし、学校・学科情報掲載ページを増やし、情報公開ページの充実する。また、東海地域の高等学校での出張授業の実施や訪問による広報活動を強化する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
岡田 壮市	医療法人珪山会	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	企業等委員
押部 優子	中日新聞社健康保険組合中日病院	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	企業等委員
小林 忠雄	こばやし接骨院	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	企業等委員
谷澤 文彦	県立城北つばさ高等学校	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	高校教諭
都嶋 信成	セントラルスポーツ株式会社	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	企業等委員
徳永 勝哉	有限会社ガイアそうこ	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	企業等委員
東 裕子	医療法人としわ会	令和2年4月1日 ～令和3年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<https://www.nheisei.ac.jp/>

公表時期:令和2年10月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育内容や学校運営等に関する情報を積極的に提供し、企業等と連携して更なる教育の充実化を図るとともに、社会的な信頼の獲得を目指すことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、理念・目標
(2)各学科等の教育	教育内容、入学者数や定員、取得を目指す資格
(3)教職員	教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	ゼミナール、学外実習、課外活動
(6)学生の生活支援	学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生学納金、経済的支援
(8)学校の財務	財務運営の状況
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	海外研修や連携の取り組み
(11)その他	卒業後のサポート

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)

URL:<https://www.nheisei.ac.jp/>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程アスレティックトレーナー学科)											企業等との連携		
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業方法			場所		教員	
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
1	○		身体の仕組み	人体の構造、機能。機能を支えている物質について学習する。特に、骨格系、筋系、神経系と上肢および下肢の構造を理解する。	1・通年	60	4	○		○	○		
2	○		スポーツ生理学 I	身体を動かす運動器について基礎的な知識を習得し、運動することによって起こる身体諸器官・諸機能の適応について理解を深める。	1・前期	30	2	○		○	○		
3	○		スポーツ内科学	スポーツ活動中に起こりうる内科的疾患（急性障害）及び、スポーツパフォーマンスに影響を及ぼす可能性のある内科的疾患（慢性疾患）についての基礎知識を身につける。	1・前期	30	2	○		○	○		
4	○		スポーツ外傷学	スポーツ現場で起こり得る外傷・障害について、トレーナーとして知っておくべき基礎的な知識を学習する。	1・前期	30	2	○		○	○		
5	○		食育学 I	競技者における栄養指導の重要性を理解し、スポーツにおける栄養摂取の役割及び関係する栄養素などについての知識を身につける。	1・前期	30	2	○		○	○		
6	○		共通科目	選手のパフォーマンスを向上させるための栄養面、心理面について学ぶ。栄養面では栄養素の役割、栄養摂取の考え方、水分補給を、心理面では各種心理技法の基礎を学ぶ。	1・前期	30	2	○		○	○		
7	○		コーチング論 I	アクティブラーニングを通してコーチングの本質について考え、自身のコーチング理念・哲学を確立する。	1・前期	30	2	○		○	○		
8	○		コーチング論 II	アクティブラーニングを通してコーチングの本質について考え、自身や他者のコーチングが異なることを理解し自らが果たすべき役割を多角的な視点から述べるようにする。	1・前期	30	2	○		○	○		
9	○		トレーニング論	トレーニングプログラムを作成する為に必要となる様々な科学的トレーニングについて、その内容・方法・効果などについて学ぶ。	1・前期	30	2	○		○	○		
10	○		トレーニング実習 I	科学的トレーニングの実践を通じて、種目や対象者の特性等に応じたトレーニングの知識、技術を習得し、トレーニングプログラムの作成方法について理解を深める。	1・前期	30	1			○	○	○	
11	○		トレーニング実習 II	競技スポーツ分野からフィットネス分野までの幅広い対象者に対する安全で効果的なレジスタンストレーニングの実技実践能力と指導方法を習得する。	2・後期	30	1			○	○		○

12	○			テーピング実習 I	アスレティックトレーナーが遭遇しやすいスポーツ外傷・障害(足関節)に対するテーピング方法を理解し、実施できるようにする。	1 ・ 前 期	30	1			○	○			○	○	
13	○			アスレティックトレーナー概論	選手を中心とするスタッフの構成や各々の役割を学習し、アスレティックトレーナーが活動しやすい環境を整備するために、いかに連携し協力していくべきかを理解する。	1 ・ 前 期	30	2	○			○		○			
14	○			アスレティックリハビリテーション理論 I	アスレティックリハビリテーションを指導する上で必要となる基礎知識を学習する。	1 ・ 後 期	30	2	○			○			○		
15	○			アスレティックリハビリテーション実習 I	競技特性を考慮したスキルエクササイズや、競技復帰直前のフィールドエクササイズプログラムを作成できる能力を養う。	1 ・ 後 期	30	1			○	○			○		
16	○			アスレティックリハビリテーション論・実習 II	スポーツ動作の観察や身体の機能評価から導かれた問題点を改善するためのプログラムを作成できる能力を養う。	2 ・ 前 期	60	4		○		○			○		
17	○			機能評価論 I	筋力や関節可動域、関節安定性などの身体機能を評価するために必要な検査・測定方法を学習する。	1 ・ 後 期	30	2	○			○			○		
18	○			機能評価論 II	歩行やランニング動作、投球動作等の基本的なスポーツ動作の観察を行い、動作の問題点を抽出する能力を養う。	2 ・ 前 期	30	2	○			○			○		
19	○			機能評価実習	各外傷・障害に応じた検査方法の遂行と評価方法を習得する。	2 ・ 後 期	30	1			○	○			○		
20	○			救急対応論・実習 I	重症外傷の対策、頭部外傷・頸部外傷への対応と、重要性について理解し、実践できるような知識・技術の習得を目指す。	1 ・ 後 期	30	2			○	○			○		
21	○			救急対応論・実習 II	重症外傷の対策、頭部外傷・頸部外傷への対応と、重要性について理解し、実践できるような知識・技術の習得を目指す。	2 ・ 前 期	30	2			○	○			○		
22	○			コンディショニング論・実習 I	コンディショニングの概念を理解し、競技者がより良いパフォーマンスを発揮するための各要素を評価し向上させるための具体的な方法を学習する。	1 ・ 後 期	30	2		○		○		○			
23	○			コンディショニング論・実習 II	競技特性を踏まえたコンディショニングによって、パフォーマンス向上および外傷予防に役立てる能力を養う。	2 ・ 前 期	30	2		○		○		○			
24	○			動作学 I	解剖学の知識を深めるとともに、正常な関節運動と異常な関節運動を理解し、対象者の問題点を把握する能力を習得する。	1 ・ 後 期	30	2	○			○		○			
25	○			動作学 II	解剖学の知識を深めるとともに、正常な関節運動と異常な関節運動を理解し、対象者の問題点を把握する能力を習得する。	2 ・ 前 期	30	2	○			○		○			

26	○		食育学Ⅱ	競技特性の異なる競技者の日常的な栄養ケア、および栄養欠陥による疾病の予防や様々なトレーニング状況に応じた栄養ケアができる知識を養う。	1 ・ 後 期	30	2	○			○		○		○
27	○		スポーツ心理学	スポーツ技能の学習や指導、スポーツの動機づけ等、アスレティックトレーナーが運動指導をする上で知っておくべき心理学的知識について専門的に学習する。	1 ・ 後 期	30	2	○			○		○		○
28	○		スポーツ生理学Ⅱ	筋収縮形態やエネルギー供給機構をはじめ、アスレティックトレーナーが運動指導をする上で不可欠な生理学的知識についてさらに専門的に学習する。	2 ・ 前 期	30	2	○			○		○		
29	○		バイオメカニクス	身体の構造を理解したうえで運動を力学的観点から捉え、走・投・跳などの各種動作のバイオメカニクスを学習する。	2 ・ 前 期	30	2	○			○		○		○
30	○		トレーニング科学	トレーニングを指導するために必要となる基礎知識を理解し、さらに運動生理学やバイメカニクスなどの関連分野の内容を踏まえ、実際の指導に応用できる能力を養う。	2 ・ 後 期	30	2	○			○		○		○
31	○		テーピング実習Ⅱ	アスレティックトレーナーが遭遇しやすいスポーツ外傷・障害(膝関節・下腿部・足部・大腿部・股関節)に対するテーピング方法を理解し、実施できるようとする。	2 ・ 通 年	60	2				○	○			○
32	○		スポーツ医学(内科)Ⅰ	スポーツ現場で遭遇する内科的疾患の名前、特徴などを理解し適切な対処ができる能力を育成する。	1 ・ 前 期	30	2	○			○		○		○
33	○		スポーツ医学(外傷)Ⅰ	各外傷・障害の名称だけでなく、特有な検査方法、症状などを理解する。	1 ・ 後 期	60	4	○			○		○		○
34	○		スポーツ医学(内科)Ⅱ	スポーツ現場で遭遇する内科的疾患の名前、特徴などを理解し適切な対処ができる能力を育成する。	2 ・ 前 期	30	2	○			○		○		
35	○		スポーツ医学(外傷)Ⅱ	スポーツ外傷・障害の基礎知識を踏まえ、外傷・障害の発生メカニズムを追求し、発生メカニズムに基づいた治療方法やアスレティックリハビリテーションの方法を理解する。	2 ・ 前 期	30	2	○			○		○		
36	○		A Tゼミ	スポーツ現場で必要となる医学的な知識・技術を再学習し、選手に対するアスレティックリハビリテーションプログラムの内容やその効果についての症例検討会を実施する。	2 ・ 通 年	60	4		○		○		○		
37	○		A T実践	アスレティックトレーナーの現場に必要とされる選手の筋・骨格機能の評価および処置の実践能力を育成する。	2 ・ 後 期	30	2		○		○		○		
38	○		A T現場実習Ⅰ	スポーツ現場や医療機関などにおいてチーム内での連携、トレーナーとしての役割、運営方法などについて学ぶ	1 ・ 通 年	120	4			○	○	○	○	○	○
39	○		A T現場実習Ⅱ	スポーツ現場や医療機関などにおいてチーム内での連携、トレーナーとしての役割、運営方法などについて学ぶ	2 ・ 通 年	120	4			○	○	○	○	○	○

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業年次終了時に必要単位数以上を取得していること。	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。